

前回では、厳しい水道事業財政の中で水道の原価を再検討しなければならないことについてお話をしました。



水道  
を考える…

(5)

## 一やりくりが大変な水道事業

### 不均衡――\*

まず、水道使用料金は適正な原価を基礎として、公営企業の健全な運営を確保するのに足るものでなければならぬ」と言われています。

そこで、当市の水道事業の中味がどうなっているかみてみましょう。

昭和五十二年度(料金改定年度)から四年間における収益的収入状況を表Aの指數でみますと、五十五年度の収益合計は五十二年度を100.0とした場合三三・六%、また前

年度も大変違つてきます。

表A 収入指數

科目	収入指數			
	52	53	54	55見込み
◎営業収益	100.0%	116.9%	127.0%	124.4%
給水収益	100.0	118.9	115.9	118.0
受託給水工事収益	100.0	105.4	207.5	172.1
その他營業収益	100.0	114.9	98.9	103.4
◎営業外収益	100.0	123.3	135.5	114.2
収益の合計	100.0	116.3	126.4	123.6

表B 支出指數

科目	支出指數			
	52	53	54	55見込み
◎営業費用	100.0%	111.1%	134.0%	145.1%
人件費	100.0	102.5	105.3	110.6
動力費	100.0	100.0	98.0	184.0
薬品費	100.0	100.5	101.9	119.1
受託給水工事費	100.0	114.6	203.9	231.4
減価償却費	100.0	121.9	144.7	158.7
◎営業外費用	100.0	115.6	128.5	140.8
支払利息	100.0	116.3	129.7	142.4
◎特別損失	100.0	128.2	297.0	148.8
費用の合計	100.0	112.3	132.6	144.5

### 純利益はゼロの見込みに\*

さるご理解いただけると思ひます。五十四、五十五年の兩年度における一月あたりの給水原価と販売価格の関係は

ます。

表C 1m<sup>3</sup>当りの給水原価と販売価格

年度	1m <sup>3</sup> 当りの給水原価と販売価格			
	52	53	54	55見込み
給水原価	74.97 <sup>11</sup>	92.00 <sup>11</sup>	102.26 <sup>11</sup>	104.53 <sup>11</sup>
販売価格	78.04	101.67	101.33	99.99
販売利益	3.07	9.67	△0.93	△4.54

から水道事業に關係する人た

がゼロになることが予

想されます。

かといって、水道使用料金

は公共料金ですから安易な料

金改定は許されません。す

べて、血液を通す

のに強い圧力が

必要になります。

このとき、人

体の不思議な

カニズムが働い

て、血液循环を

円滑にするため

に血圧が高くな

ります。一方

ナトリウムの増加によつて血

液量が増え、そのため、さら

に血圧を押し上げるという悪

循環を繰り返すことになるの

です。

日本人の病気の大半を占め

る脳卒中や心臓疾患などは、

こうして生みだされていくの

です。

では、私たちは毎日の食生

活で、どのくらいの食塩をと

つたらしいのでしょうか。

「理想としては一日七グラム

ですが、急に淡泊な味にするこ

とのも無理でしようから、

少なくとも十グラムを一応の目安

にすることがあります」

「理想としては一日七グラム

ですが、急に淡泊な味にするこ

とのも無理でしようから、

少なくとも十グラムを一応の目安